

所 報

No.40

佐賀県教育センター
佐賀県佐賀郡大和町川上
TEL 0952-62-5211

も く じ

* 教師受難の時代か	1
* 昭和60年度研修事業(短期研修講座)の概括と昭和61年度の構想	2
* 研究紀要の概要	4
* 長期研修生寸感「研鑽を積む」	6
* 60年度情報処理教育の生徒実習を終えて	8
* ハレ一彗星観望会 一雲のすきまから青白い光一	9
* 全国教育研究所連盟、九州地区教育研究所連盟 合同研究協議会 佐賀大会	10
* 教育実践・研究記録の入選者決まる	11
* 私のすすめる「一冊の本」 教育実践・研究のヒントー「教育資料のお知らせ」の活用ー	12

教師受難の時代か

佐賀県教育センター研修一課長 桜 井 英二郎



最近「教師受難の時代」と言うことばをよくきく。確かに昨今の教育現場をとりまく環境はきびしいものがある。そして、それはややもすると教師批判、学校非難になりがちな感をいだく。近年の教員養成系の大学志願者数の減少もこうした世相を反映してのことであろうか。

つい先日、当のご本人たちから聞いたことであるが、中堅教師とも言うべき3人が、とあるところに立ち寄ったおりに、教師という職業が周囲の話題になって1人のお客から、「先生たちはもう少ししっかりしてくれ」という趣旨の言葉を浴びせられ、早々に退散したというのである。被害者意識にとらわれすぎたものと思うが、「教育に対して自信を失いそうだ」と苦笑まじりに語ってくれた。これは特異な例としても、今日教育問題の責任をとるとすると教師と学校に負わせる風潮として釈然としないものがある。

ところで、教育の荒廃が論じられるとき、家庭における教育力の低下ということが問題となっていて、家庭教育におけるきびしさの欠落が指摘されることもよく耳にする。例えば、就学前の家庭における善悪のけじめ、あるいは、集団に適應していくうえで必要な基本的生活習慣の不足というようなことである。少なくとも、学校という「小さな社会」の平和と秩序を乱さずに、

集団生活に適應調和できるだけの最低限の家庭教育を保護者はきちんとしてほしいというのであろう。

とりあげる角度によって、問題の所在は異ってくるが、大切なことは、互いに責任を転嫁し合ったところで、そこからは何もよい結果は生まれてこないということである。私はその意味においても「教師受難の時代」という受けとめは、少なくとも教師はするべきではないと考える。確かに困難な時代にはちがいないが、「受難」と受けとめて、そこにとどまる限り、子供たちの心を動かすような教師のエネルギーは期待されないような気がするからである。

教育の世界は、ある面では保守的だといわれるが、世の中の進歩を先取りするものでもなければならぬ。このことについて、ソニーの会長である井深大氏は、教師の力として、「先取りするものを見分ける深い洞察力と指導力」の必要性を説いておられる。

社会は時とともに動いていく。「この動きに應じて動く教育のあり方」を生み出すために、生みの苦しみを負うことが教師の宿命であるとしたら、私たちは、「教師受難の時代」を過ごしているというよりも、明日の教育への「教師陣痛の時代」を迎えているというべきではないであろうか。

昭和60年度研修事業(短期研修講座)の概括と

昭和61年度の構想

1 昭和60年度の概括

本年度の短期研修講座を概括すると、次の通りである。

- 教職員の資質・能力の向上に寄与する効果的な研修
- 教育指導上の課題や、学校の要望にこたえる実践的研修
- 教職員が、意欲的に参加できる研修

これらを柱にして、102の講座を設定した。受講者総数は2,644名で、定員より、287名増である。

(1) 短期研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校 種	講座数	定 員	受講者数
教 科 国、社、算・数 理、英、音 図工・美等	小 学 校	23	639	612
	中 学 校	14	274	212
	高 等 学 校	14	234	239
	合同(小・中)	2	55	67
経 営 道徳、特活 へき地、工 学機器等 評 価 学 校 学 級 学 級 事 務 等	小 学 校	8	230	249
	中 学 校	6	120	173
	高 等 学 校	6	150	198
	合同(小・中・高)	6	140	148
指 導 相 談 情 報 処 理 等	幼 稚 園	1	50	103
	合同(幼・小・中・高)	11	352	525
情 報 処 理 等	高・工業高校	11	113	118
	合 計	102	2,357	2,644



幼稚園教育実技講座(図画工作)
「ジャンボバルーンであそぼう」

(2) 短期研修受講感想

ア…よかった。イ…どちらともいえない。
ウ…よくなかった。

校 種	回 答 者 数	全 体 感 想					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼 稚 園	84	81	96.4	3	3.6	0	0
小 学 校	784	722	92.1	59	7.5	3	0.4
中 学 校	372	345	92.7	24	6.5	3	0.8
高 等 学 校	560	519	92.7	40	7.1	1	0.2
合 同	505	446	88.3	59	11.7	0	0
合 計	2,305	2,113	91.7	185	8.0	7	0.3

校 種	回 答 者 数	講 座 の 内 容					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼 稚 園	84	74	88.1	10	11.9	0	0
小 学 校	784	697	88.9	84	10.7	3	0.4
中 学 校	372	332	89.2	38	10.2	2	0.6
高 等 学 校	560	504	90.0	55	9.8	1	0.2
合 同	505	439	86.9	64	12.7	2	0.4
合 計	2,305	2,046	88.8	251	10.9	8	0.3

校 種	回 答 者 数	講 師					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼 稚 園	84	78	92.9	6	7.1	0	0
小 学 校	784	694	88.5	86	11.0	4	0.5
中 学 校	372	334	89.9	35	9.3	3	0.8
高 等 学 校	560	503	89.8	57	10.2	0	0
合 同	505	454	89.9	48	9.5	3	0.6
合 計	2,305	2,063	89.4	232	10.1	10	0.5

(3) 講師等

地 域		60年度		61年度
		計画	実績	計画
県内	大学等(佐大、短大他)	85	69	57
	教職員、教育庁関係	175	200	198
県外	九州内大学等	35	28	31
	関西以西大学等	20	18	19
	関東地区、以西	10	9	7
総 計		325	324	312

講座内容の充実をめざして、広く全国各地から、著名な講師を招へいた。

(4) 役立った事柄

- 原理・理論的なもの
- 教科指導に関する基礎的、専門的な知識

や理論、学校・学年・学級経営に関する知識、教育相談による児童・生徒理解、教材分析、授業設計の内容と方法、評価の種類と方法、法規についての知識・理解、教育機器についての知識・理解、問題意識や学習意欲の醸成など

○ 実践的なもの

授業設計の方法と工夫、教育相談を取り入れた児童・生徒とのかかわり方、学校・学年・学級経営案の内容と手順、教具・教材・資料の作成、授業の中での形成的評価の方法など。

○ 実技、演習的なもの

コンピュータ、パソコンの実技向上、学習指導案、学年・学級経営案の作成、ビデオ・カメラ・スライドの幻燈機・映写機等々の操作、理科実験・観察の技法や留意点、学級レクリエーションの内容と技能、法規演習、SP表の作成など。

○ 情報交換的なもの

他校の先生方との情報・意見交換による視野の拡大、悩みの相談、指導法の紹介、交流による自分自身への反省や励み、他校の授業や生徒指導についての理解など。

(5) 受講後における現場での利用状況

教材研究、指導案・経営案の立案、評価、教育相談、実験・観察、生徒指導、機器の操作とその活用、広い視野からの指導方法とその工夫、資料・教具作りとその活用、年間指導計画の立案、校内研修や研究授業、学校経営、学年経営、学級経営の参考など。

2 昭和61年度の構想

(1) 具体的方針

- ① 教育指導が、教師に負うことを認識し、効果的な研修の推進を図る。
- ② 教育指導上の課題や、学校の要望にこたえるように、研修内容の改善・充実を図る。
- ③ 研修方法を工夫し、教職員が意欲的に参加できる研修を行う。

(2) 短期研修講座

校 種	講 座 数	受講定員
幼 稚 園	1	50
小 学 校	30	849
中 学 校	20	394
高 等 学 校	27	387
合同(小中高特)	24	677
計	102	2,357

(3) 領域別講座数及び受講者定員

領 域 等	講座数	講座日数	受講定員
教科関係講座	53(1)	138	1,202
教育経営関係講座	27	76	690
指導相談関係講座	11(2)	73	352
情報処理関係講座	11(3)	93	113
計	102	380	2,357

()断続研修

(4) 新設する講座

- ・心理検査講座……20名

就学指導のための諸検査、特殊学校や養護学校への就学判定のための知能検査や、社会生活能力検査等の実施方法等が内容である。現場からの要望をふまえて、この講座を新設した。

(5) 宿泊日の設定

2～5日間の講座期間内で、原則として、1泊以上の宿泊日が設けてある。この宿泊日の夜の自主研修では、教育実践上の悩みや諸問題について、意見交換を行い、これからの教育実践に役立てることを目指している。

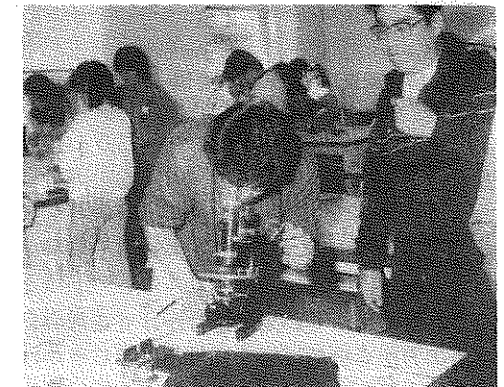
3 さいごに

社会の進歩にともなって、教育の内容も複雑になり、教育課題、指導技術も、新しい対応が求められている。生徒指導、教育相談における精神医学の応用、教育へのコンピュータの活用等がそうである。

こうした情勢を受けて、教育センターでは、先生方の自発的な研修にこたえられるよう、61年度も、102の講座を設定し、「研修を受けてよかった。実践に生かしたい。」といわれるよう講座内容の改善・充実のために鋭意努力していく所存である。

日々の教育実践に自信をもって当たり、なおまた、教養を身につけるために進んで受講され、自己研鑽につとめられることを願うものである。

(教育経営係)



理科(野外観察)講座「岩石の中の鉱物を調べよう」

昭和60年度 研究紀要の概要

教育センターでは15の主題を設定し、研究を進めてきました。そのうち、60年度完結した8つの研究を「研究紀要第10集」として収録しました。研究に当たっては、県内の先生方に研究委員として協力していただき、学校における教育指導上の課題と密着した内容となるよう努めました。4月には各学校に配布しますので、教育活動の充実・改善のために活用していただきたいと思います。

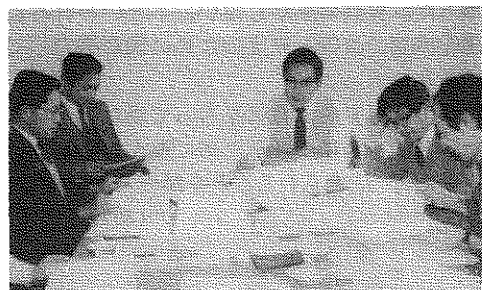
児童・生徒の問題行動の理解と指導に関する調査研究

生徒指導の充実を図るうえで障害となっている問題点として、教師の共通理解の不足があげられ、具体的には、生徒指導に対する認識が浅いことや、教師間の考え方の違いから実践が不徹底であることが学校現場から指摘されている。

そこで、問題現場における教師の意識と実際の指導との関連を調査し、今後の生徒指導推進の参考に供してもらうため、校種別・男女別・年代別に次のことについて調査・分析した。

- 1 規則観、共通理解観、生徒指導観について教師間にどのような違いがあるか。
- 2 問題行動場面での指導の実態を調査し、教師と児童生徒の受けとめ方にどんな違いがあるかなど。

(教育基礎調査)



研究調査「中高の連携を図った学習指導の工夫」(数学)についての研究委員会

子どもの意欲的な活動を促す教材・教具の工夫

自然はだまっていたり語りかけてこない。子どもの方から自然に目を向け、はたらきかけることから新しい疑問が生まれ、主体的に探究する理科の学習が展開される。

そのためには、教師が身の回りの自然の中から教材化できそうな素材を洗い出し、児童の実態や地域の特性に合った教材・教具を工夫・開発していかなければならない。そして、児童が自然に接しやすくなるような学習の場を意図的・計画的に仕組んでいくことが大切である。

本研究では、文献等による研究や実態調査、授業実践を通して、子どもの意欲的な活動を促す教材・教具の在り方を明確にし、具体的な教材・教具の事例を紹介していく。(小学理科)

エネルギーと物質の構成領域における実験法の改良

— 生徒の理科に対する意識の理解に立った指導をめざして —

昭和60年3月、本県の全域から10校、約890名の中学校3年生を対象に理科学習に対する意識調査を行った。それによると、約40%の生徒が物理領域が理解できなかったと回答し、次いで化学領域となっている。このことは、高校の物理・化学を学ぶ以前から理科は難しいものと予見しているとも言える。また、昨今の生徒たちは科学技術の発展と情報の氾濫から知識過多となっている反面、自らの体験をもとに科学的に思考する能力が育っていない。

そこで、本研究は、中学・高校の理科に対する意識を問い直すと共に、物理・化学領域の指導方法の改善を考え、自然科学への興味・関心を回復させる手掛りを模索したものである。

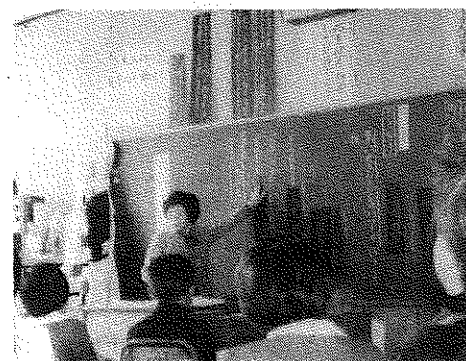
(高校理科—物理・化学—)

学校教育目標の具体化をめざす道徳・特別活動に関する研究

学校教育目標は、全教育活動を通して、人間性豊かな児童を育成するための柱であり、教師が児童を指導する上での指標であると共に、児童にとっては、めざす努力目標である。したがって、目標に即して適切な教育活動を計画し、実施し、評価するという方が講ぜられなければ

ばならない。そのためには、教育目標に対する全教師の共通理解が必要である。しかしながら現実には、学校教育目標について全教師の共通理解が必ずしも深いとはいえない。

そこで、全教師が共通理解する場を、学校のエデュケーション全体を通して行う道徳・特別活動の全体計画、年間指導計画の作成の過程の中に意図的に位置づけ、学校教育目標の具現化をめざす方途についてまとめた。(小学校学級経営)



研究調査「読みの学習における形成的評価と指導に関する研究」(小学国語)の研究授業

学校教育目標の具現化をめざした学年・学級経営に関する研究

— 学習指導、生活指導における共通理解・共通実践を求めて —

学校教育に関係したいろいろな問題が多く発生し、それに対する社会の人々の関心は、極めて高い。そういう中で、改めて、学校教育目標の具現化が見直され、教育目標について全職員による共通認識と、その具現化のための実践活動が強く望まれている。

ところで、教育目標に対する教職員の関心は、必ずしも高いとはいえない。その理由は、教育目標についての認識の甘さや、教育目標設定過程に関する問題や、目標を具現化していく教職員の姿勢に違いがあることである。

本研究では、調査に基づいて教育目標具現化の阻害要因を把握し、目標具現化をめざした学年・学級経営のあり方を究明した。

(中学校学級経営)

学校教育目標の具体化の一方策

— 宿泊研修を通して —

学校教育目標の具現化の一方策として行われている宿泊研修に対して、生徒はどのような考えで参加し、また、研修を通して何を得ている

のかを知り、宿泊研修のより良き運営をめざしてこの研究に取り組んだ。

普通科新入生宿泊、職業科新入生宿泊及び普通科学習合宿の3通りの宿泊研修について、生徒のアンケートを因子分析により処理した。それにより、宿泊研修に対する生徒の研修前の期待感及び研修を終えての達成感がどのようなものであるかを抽出し、これらの期待感と達成感との相関を調べた。次に、各学校別に、これらの期待感や達成感の強さを求め、その特徴を示し、考察を加えてみた。(高等学校ホームルーム経営)

学習効果を高めるためのビデオ教材の制作

— 高等学校理科Ⅰ「化学反応」の実験教材を通して —

ビデオテープレコーダーによって録画された教材は、映像の「かんづめ」として、いつでも、どこでも、だれでも利用できる。また、自らの活動を再現する「かがみ」としての役割をも果たしてくれる。この「かんづめ」機能や「かがみ」機能は、教育効果を高め、授業に変化を持たせることができる。

昭和58年度より、高等学校理科Ⅰの実験教材のビデオ化を進めており、今年度は、化学分野の「化学変化における量的関係」をビデオ化した。その教材内容と、昨年度制作し、内容の紹介がされていなかった生物分野の「アフリカツメガエルの発生」の2つのビデオ教材について紹介する。

(教育工学)

特殊学級児童・生徒の問題行動の理解と指導法に関する研究

昭和54年度の養護学校義務法の施行以来、特殊学級の児童・生徒の在籍数は減少したが、障害の多様化や重複化は増える傾向にあり、その指導に困難をきたしている。

この研究は、そういう担任の悩みの援助になればということで下記の内容で取り組んだ。

- ① 特殊学級児童・生徒の問題行動について調査しその要因や実態を考察する。
- ② 特殊学級児童・生徒の起こす問題行動に対して担任がどのように対処し、子どもたちがどのように反応しているかを明らかにする。
- ③ 問題行動の原因や理由、行動を理解するための視点のあて方、望ましい指導法等について考察する。

(指導相談)

長期研修生寸感 研 鑽 を 積 む !!

本年度は長期研修生として、27名の先生方が入所されました。学校での勤務とは異った環境で、「専門的分野の研究」と並行して「幅広い視野に立っての研修」を積まれています。

そんな日々の研鑽の中での小さなつづやきを拾ってみました。

次に掲げる先生方は、すでに3ヶ月の研修を終了して、現場復帰されているために「寸感」の原稿を入手できませんでした。(敬称略)
○森田和彦(嬉野商高) ○西村秀範(唐津商高) ○宮後 登(有田工高) ○乗田貞麒(佐賀工高)

私の願い

立花小学校 北川美禰子

「がんばってね。」子どもたちの声をなにより励ましとして4ヶ月。現場人は現場にあってこそ生かされると考えていたが、先生方のすばらしい御指導を頂き、目が開かれる思いであった。研修の成果を子どもと共に分かちあいたい。

ある日の研修

基里小学校 大島 茂人

一読して難解、再読して混迷、遅々として理論研究は進まない。ふと窓の外を見る。白銀をいだいた大和の山々。大友八万の若大将親貞、真先に槍を突き立て駆け上がった直茂、共に33才。我34才。さあ、もう一度挑戦だ。

教職生活での貴重な研修

北鹿島小学校 杉谷 保成

閑静なたたずまいの白い建物、このセンターでの研修も終わりに近づいた。現場で不可能な研鑽が積み、多くの先生との情報交換ができ、リフレッシュされ新たな気持ちになった。この経験は私の教師としての節目になる事と思う。

思いつくままに

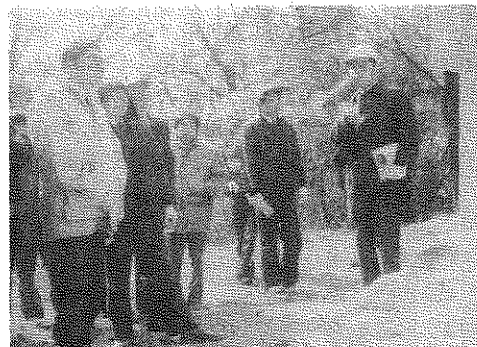
山内西小学校 早田 幸徳

長研生として入所し、早や4ヶ月。この間、1つの事を深く追究することのすばらしさ、その難しさを思い知らされた気がする。また、現場では得られない研修を、朝の談話会や長研生研修ですることができ、感謝している。

知る喜び

七浦小学校 森 数憲

人間は、食べたい欲求、眠りたい欲求などいろいろな欲求を持っている。知りたい欲求もその一つであろう。日常、忘れかけていた知る喜



長研生合同研修「史跡めぐり」

びを当教育センターで周囲の人たちに、支えられながら満喫できて、幸福です。

刮 目

三根東小学校 重松 隆

目をこすって注意してよく見るということである。何げなく見ている自然でもよく見ると、そこには動植物の生き様があり、自然の摂理がある。研究を通して、そこから学ぶことの多いのに感心することばかりである。

無知を知る

西川副小学校 犬塚 博文

教職経験の積み重ねといっても、徒らに年月を重ねるのみであった。中身もないのに自分の経験に対する過信があった。今、自分の無知、無力をつくづくと思い知らされている。初心にかえり、再スタートを心掛けよう。

爽やかな充実感

若楠小学校 小林 敬正

理論研究や研究授業と忙しい日々ではある。しかしながら、研究授業を終えたときの爽やかな気持ちは一生忘れることができぬであろう。残された貴重な日々、さらにより授業を目指して研修に励みたい。

雑 感

東山代小学校 岸田 俊朗

Beep音と共に、エラーメッセージ出現。「ああ…またか。」と思いつつも、気を取り直してバグ修正に向かう毎日。なかなか進まない研修ではあるが、徐々に自分の血肉となる手ごたえを感じてきている。

研修雑感

神集島小学校 丹野 智文

馴れることは、能力的に事が運ぶ。しかし、

馴れは誤りを犯すこともある。慣習、慣行だと言って子どもに押しつけ、それを盾にとり誤りを正当化し、手抜きもした。過去の馴れの垢を落としているきょうこの頃である。

長期研修の「感想」

唐津第四中学校 内山 敏之

6か月の研修ということでもかなり充実した研究が出来ると考えたが、なかなか研究は進まず気持ちのゆとりもなく試行錯誤の毎日。しかし自分を見つめるよい機会であった。小中高校の先生方との交流も収穫の1つであった。

あっという間の6か月間

小城中学校 石丸 和人

6か月間の長期研修、あっという間の6か月間である。いろいろな先生方と接し、視野が広がったような気がする。また、コンピューターやワープロとの出会いで、幅広い研修を積むこともできたが、多忙な毎日であった。

寒さにも負けず水遊び・ムシ遊び

思斉中学校 武富興一郎

この寒い2月、川の中で第2回目の水生動物採集が終了。しかし、1㎡の範囲にこんなにも数多くのカゲロウやトビケラ類が生息しているのかと驚かされ、同定作業に手間取り「ムシの顔」が恨めしい今日此の頃です。

教員4年目の節目

塩田中学校 植松 正鋼

目の前の事に精一杯だった3年半。教材研究の時間が足りない。さあ長研。やりたいことができるぞ。人間は勝手なものだ。生徒の顔が目の前に現われる。会いたい。あと2か月。ファイト。4月からの再出発のために。

長研雑感

有明中学校 北村喜久次

多くの友を知り、師を知り、己の無知を知る。様々な実践を聞き、考えを聞き、価値感を聞く。ひとの苦勞を聞き、我が苦勞を話し、それを看にする。紀要の完成を夢み、進めぬ研究に焦り現場を懐しみ、我が職の重さを感じる。

来談者に学ぶ

嬉野中学校 森永 幸雄

研修をはじめて、約1か月後に本番の面接をしたのが今でも深く心に残っている。悩み、苦しみを共に考え問題解決の糸口をつかむことがどんなに困難なことか、学べば学ぶほど底の深さを感じる今日このごろである。

二兎を追えば

佐賀農芸高等学校 西村 緑

真理を究める場特有の爽やかな、そしてどこかピリッとした雰囲気がとてもいい。全国の紀要の整備された図書館・マンツーマンの助言指導。充電また充電の日々。心は太目に身はスリムになって4月を迎えたいものであるが……。

研 修 生

杵島商業高等学校 俵 正博

教育センターからの帰宅途中でも、学術用語がちらつき、研究が思うように進まない毎日ですが、研修生という立場に身を置くと、ふしぎと色々なものが新鮮に見え、今まで捨て去ってきたものにまで、輝きを感じられる。

マイコンとスポーツ

鳥栖商業高校 石戸 政賛

マイコンとその関連機器の急速な発達・普及にともない、教具として効果的に利用できるように研修しているところです。昼休にはテニスに汗を流し、さっぱりしたところでマイコンにとりこんでいます。良い研修期間でした。

つづやき

佐賀北高等学校 西村 英司

生徒にできるだけ多くの英語を話させようという指導案を作る。研究授業をする。生徒は口が重い。時間が足りない。うまくいかない。生徒に生き生きと英語を話させることが、こんなにも難しいとは……。また、次の手を考えよう……

知識と心身の統合を目指して

佐賀東高等学校 長 イツ子

研修での収穫は、身につけていると思っていた知識が、真の理解になり得ていない事実を知ったことである。いま知識と心身の統合を目指して研鑽に励んでいる。思い煩う日々の中にハッと閃く悦びは何ものにも替え難い喜びである。

雑 感

佐賀商業高校 藤井 鹿男

COBOL, FORTRAN, BASICの学習に取り組んでいる。苦しく、厳しく、かつ楽しい充実した毎日であるが、最近、視力が落ち、イライラすることが多くなった。“コンピュータ疾病症候群”だろうか。

研修に思う

佐賀農業高等学校 田島 等

歴史の宝庫、大和町で時代の最先端である情報処理を学びかつない苦勞をしている。大和のつわものどもは何を感じているだろうか。時代に押し流されず、古きものを見つめ、確かな情報を選択し第5世代への基礎としたい。

60年度情報処理教育の生徒実習を終えて

—— 商業高等学校を中心に ——

【はじめに】

昭和57年10月県教育センターに電子計算機を設置し、研修講座を開始して4年経過した。本年度は工業科ならびに商業科の教職員を対象とした短期研修講座・断続研修講座をのべ93日、長期研修正（3か月・6か月）6名を受け入れた。また、生徒実習においては工業高校63学級、商業高校41学級、計104学級、すなわち104日の実習を終了した。

この実習に当たっては、全日制商業及び工業高校の生徒の場合在学期間中に1回分、情報処理科、機械科、電子科、金属工業科ではさらに1回分に当たる往復のバス代が、全額県費で予算化されている。これは、近未来の高度情報化社会に対応すべく教育行政上の特別の配慮によるものである。

各学校では、その趣旨を十分ふまえて実習にのぞみ、事物の内容検討もよくなされていることから、極めて充実した効率の高い学習がなされている。

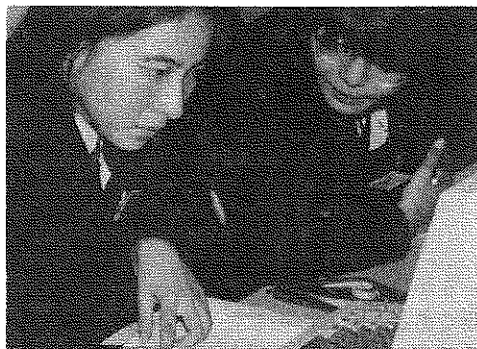
その内容は、商業系では、コボルまたはフォートラン言語による作表のための入出力、データの入出力等、工業系では、フォートラン言語による作表や工業計算のための入出力等、また数値制御工作機械実習といったことなどが挙げられる。

生徒実習は学校の授業をそのままセンターへ移し、学校での実習を補完するものである。また、学校の電子計算機とは機種・操作法・装置も異なる機械を体験させて社会へ出て機械への恐れをなくすことを目的としている。

【生徒実習上の工夫】

生徒実習を実施するにあたっては、実習問題を学校で決定するに当たっていろいろ検討されると思われる。しかし、クラスによっては、学校行事等のために欠けて、予定の時間数がとれない場合がある。授業が遅れている場合は他のクラスと同じ問題で処理条件を変更することにより、そのクラスの進度に適した問題になるよう工夫され実習されている。

ある学校の実習をする期間が、最初のクラスから最後のクラスの実習日まで1か月以上はなれている場合があった。この学校では実習問題



プログラミングの実習

を前半と後半のクラスに分けて問題を準備され、授業の進度との調整をはかり実習効果を上げるために努力されていた。

実習問題は一般に指導した内容より、やや考えさせる部分が含まれているが多い。各学校独自の指導法により、生徒の能力等を考慮して作られているので私には大変役に立った。

開設当時は、プログラムの作成を目的とした実習問題であり、実行に必要なデータは引率の先生が準備されたものを利用するのがほとんどであった。昨年度よりプログラムとデータ作成は、生徒各個人のもので実行するといったように各学校でも工夫されてきている。これは指導要領にも上げてあるデータ処理実習に該当するものと思われる。

データ処理実習にはデータ処理のシステム設計、経営情報の処理に分類できる。一般的には経営情報の処理を指すものと思われる。県教育センターと県商業高校の商業部会と協力しあって研究委員会等の名称で発足させ、経営診断分析（ビジネスゲーム）・総合実践の経理情報処理等のソフトを開発して行きたいものと思っている。

生徒は、センターのコンピュータをはじめて扱う。操作を習うと同時にプログラムを考えることは生徒負担が重くなる。ある生徒は、一日中プログラム等の修正に時間を使い、何をセンターに学習にきたか分からない状態が発生するかもしれない。これは私の取り越し苦労であってほしいと望むものである。

学校のコンピュータとセンターのコンピュー

タの長所・短所について実習を終了した生徒から講義室等で書かせることは、コンピュータを理解する上で重要なことであると思うし、また実際に生徒たちに書かせてある学校もすでにある。

引率をされる先生は、できうるかぎり生徒実習日以前にセンターへ出向き、センターのコンピュータを使って、生徒実習へ同じ問題を実際に実習され、機種の相異等を再認識していただければ、生徒実習がスムーズに行くものと思われる。

学校のコンピュータの中にはJIS（標準）規格を拡張して利用できる部分がある。この場合は他の機種・他のメーカーでは使用できない等をも理解させられている学校もある。

ハレー彗星観望会

雲のすきまから青白い光！

76年の周期でこの地球に接近するハレーすい星を一度見てみたいという天文ファンの強い要望に応じて、当センターでは1月6日、7日、8日の3日間「ハレーすい星観望会」を計画した。

観望会を実施するにあたって一番心配だったことは、天候に恵まれるかどうかということであった。一般的にいうと、年末年始は晴天の日が少ないこと。それに加えて、ハレーすい星の観望可能な時間が夕方6時30分から7時30分ごろまでというごく限られた時間に、空が晴れてくれればよいということであった。

次に気がかりだったことは、参観者の安全の確保であった。当センターの天体観測室は、一般公開できる設営にはなっていないため、児童・生徒や一般の方々の事故防止には、万全を期す必要があった。夜間照明、案内、暖房、観測のための踏台設置などに気を配った。

応募者を募ってみると、県内各地（遠くは太良、玄海町、伊万里市など）から、226名の観望希望者があった。1時間足らずのわずかな時間に観望できる人数は20名が限度だということで、応募者の中から抽選で60名の方に許可通知を出した。

初日（6日）の夕方はくもり空で、所員も参観者も半ばあきらめかけていたとき、天の助けが、観測時間に合わせるかのように、南西の雲に切れ間ができた。そして、口径20cmの望遠鏡

OCR（光学文字読取装置）は、ある特定の用紙にプログラムを正確に書かなければ誤読することを理解させる必要があるのではないだろうか。コボル言語による実習のときは、データディビジョンまで書かせ、その後は端末より入力する方法で実施された。

【おわりに】

県教育センターの電子計算機は、近く更新の時期を迎えるので、各県の情報処理教育センター及び県内の工業・商業高等学校の参考意見やご協力をお願いすることになると思う。

最後に県内各学校の引率の先生方がセンター実習にあたって本年度は自から進んで操作法から全部説明され実施された熱意に対して感謝する次第である。（情報処理教育係）

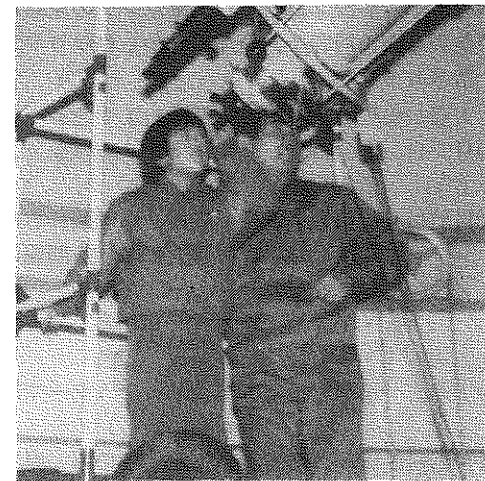
と屋外に取りつけた小型望遠鏡とが、青白く輝くハレーすい星をとらえることに成功した。

当日参加した人たちは、「見えた！見えた！」と、その幸運を喜び合った。

2日目は、昼間から夜まで雪のため中止を余儀なくされた。3日目は、くもり空が晴れるのを待ったが、ハレーすい星は顔を見せなかった。そのため「自宅や学校でできるハレーウオッチの仕方について」係員が説明をして終わった。

天体の観測は、天候に左右される面はあるが、これを機会に、宇宙への興味や関心を持ってくれる人が、1人でも多くなればと願っている。

（理科教育係）



天体望遠鏡によるハレー彗星の観望

昭和60年度

全国教育研究所連盟、九州地区教育研究所連盟 合同研究協議会

佐賀大会

—— 教育相談部会、心身障害児教育部会・特殊教育部会 ——

全国教育研究所連盟と九州地区教育研究所連盟と佐賀県教育センターの共催による昭和60年度の合同研究協議会—教育相談部会、心身障害児教育部会・特殊教育部会—が、10月30日、31日、11月1日の3日間、ホテル龍登園と佐賀県教育センターで開催されました。

大会には、国立教育研究所次長の横尾壮英先生や佐賀県教育委員会教育長の志岐常文先生をはじめ、県外の58の教育センター並びに教育研究所から94名、また県内の小中高校から42名の多数の方が参加されました。

開会式では、国研の横尾次長と佐賀県教育センター乗田徳次郎所長の主催者の挨拶と志岐教育長の祝辞がありました。続いて「問題をもつ子へどうかかわるか」のテーマのもとに3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。2日目には、下記のテーマによる分科会で13名の方の研究発表があり、夕食後は課題別学習会がありました。各学習会の世話人による進行で、夜遅くまで意見が交わされて和やかなムードの中にも充実した会合が展開されました。大会最終日には、「フォーカシングについて」と題して産業医科大学の池見陽先生による講演がありました。先生は気持ちと言葉、気持ちとからだの反応の「一致とズレ」を具体例を挙げて解説され、カウンセリングの原点にかかわる深い内容を、簡潔にしかもわかりやすく話されました。

大会の日程と主な内容を紹介すると、
10月30日 開会行事、パネルディスカッション 情報交換会
10月31日 児童期における問題、思春期における問題、心身障害児における問題に
分かれての分科会
・午 前：指定発表 3名
・午 後：応募発表 10名
・夕食後：課題別学習会（テーマは分科会に同じ）
11月1日 講演、教育視察（希望者のみ、県立九州陶磁文化館、深川製磁KK）



開会式における国研 横尾次長の挨拶

本大会は隔年ごとに行われており、昭和58年度の山梨県大会に続くものでしたが、内容における課題の提示はありませんでした。したがって、大会主旨として、あるテーマに限定せず、なんでも自由に話しあえる大会にしたいということで出発しました。その結果は、応募発表者の方が多く、発表内容も、登校拒否、いじめ、学校における教育相談のあり方、授業における生徒との人間関係そして心身障害児教育における教材教具の研究、精薄児童のこぼの指導など広範囲にわたりました。

参加者一同、3日間を通じ胸襟を開いて語りあうことができました。それは時間を忘れた熱心な語りあいだけでなく、発表された問題（現象）の背景に内在する原因や心理メカニズムの理解のために、互いの主張を心おきなく述べあう場となりました。

○ある指定発表者のことばの中に「1つの方法で全部はカバーできないが、カウンセリング理論にふりまわされず、子どもの心理を考えながら効果のある手法を考えていかなければならない」というのがありました。理論を忠実に実践するなかで、やがてその理論を超え、自分なりの手法と理論を構築しておられたその発表者の姿が今なお印象に残っています。

（指導相談係）

昭和60年度

教育実践・研究記録の入選作品決まる

当教育センターが募集していました昭和60年度「教育実践・研究記録」の応募状況は下記のとおりでした。

小学校	15編
中学校	8 "
高等学校	1 "
計	24 "

これを教科・領域等別にみると、

小学校国語	3編
小学校社会	2 "
小学校算数	4 "
小学校音楽	2 "
小学校健康教育	1 "
小学校学級経営	2 "
小学校学校経営	1 "
中学校国語	1 "
中学校社会	1 "
中学校音楽	1 "
中学校学級経営	2 "
中学校道徳	1 "
中学校特殊教育	1 "
中学校教育相談	1 "
高等学校物理	1 "
計	24 "

以上24編の応募作品については、慎重・厳正に第1次審査及び第2次審査が行われ、次の4編が入選と決まりました。

なお、この入選作品は、佐賀県教育センター「教育実践・研究記録集No.7」として公表し、各学校へ配布する予定です。

<入選作品>

○意欲的に文章で表現する子どもを育てる指導の工夫

佐賀市立若楠小学校

教諭 川原田 賢二郎

○基礎的な事項の確かな習得をめざして

—授業の中に個別学習を取り入れた算数科指導— 6年「場合の数」の指導実践を通して

山内町立山内西小学校

教諭 山口 左内

○子供への期待と雰囲気づくりの中で「すべての子に燃えてほしい……。」そういう想いの私の学級経営

厳木町立本山小学校

教諭 峰 茂 樹

○パソコンMSXを教育に活用する1つの試み

—主にプログラム・カートリッジ化を中心に—

佐賀県立佐賀工業高等学校

教諭 野 中 亮

今年度の最終審査は、次の方々をお願いしました。（敬称略）

池 田 貞 美

（佐賀大学教育学部教授）

西 山 友 男

（多久市教育委員会教育長）

脇 山 正 大

（佐賀県立佐賀北高等学校校長）

原 口 信 美

（佐賀大学教育学部附属中学校副校長）

筒 井 直

（佐賀県教育委員会学校教育課長）

迎 昭 典

（藤津教育事務所長）

乗 田 徳次郎

（佐賀県教育センター所長）

伊 東 釧二郎

（佐賀県教育センター次長兼

研修二課長）

桜 井 英二郎

（佐賀県教育センター研修一課長）

多久島 和

（佐賀県教育センター研修三課長）

最後になりましたが、御応募いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。



私のすすめる「一冊の本」

「敦煌 砂漠の大画廊」(日本放送出版協会)

井上 靖, NHK取材班

喜多郎の演奏によって、石坂浩二が語りかけてくるシルクロードに魅了されて、「敦煌 砂漠の大画廊」を手にしたとき、20数年前何気なく読み過ごした井上靖著「敦煌」を思い起こした。

著者は、学生時代から中国西域関係の書物を読むのが好きで、敦煌附近の都邑のイメージは書物から得たものがもとになっていると語られている。改めて読書の素晴らしさと、著者の敦煌莫高窟への思いをひしと感じさせられている。

上峰村立上峰小学校

教頭 森 哲夫

「近未来社会の読み方」(グリーンアロー出版社)

堺屋 太一ほか

現代社会はまさに驚くべき変貌をとげている。

「物」の豊かさを追い求めた結果、「心」の貧しさをもたらした。学校教育においても例外ではない。従来までの教育観や価値観だけでは対応しきれないとこまできているような気がする。いったい、これからの社会はどう動き、またそれにどう対処したらいいのか、それらの問いに答えてくれるのが本書である。「教育」を客観的に眺めることも、ときには必要である。

塩田町立五町田小学校

教頭 小野原隆義

「この子らとのひびき合い」(明治図書)

北脇三知也

この本は長らく特殊学級の担任として障害児教育に心血を注いできた著者の実践記録である。

とかく予断と偏見をもって見られがちな障害児に生きる喜びを味わわせ、生きる力を身につけさせるため教師はどう取り組めばよいかについて数多くの示唆を与えてくれている。教育の荒廃が叫ばれている今日、ひびき合う心の交流が学校教育に携わるすべての者に対して、教育の原点を見つめ直す一つのきっかけを与えてくれているように思われてならない。

佐賀市立鍋島中学校

教頭 吉富 範忠

「セーラー服と機関銃」(角川文庫)

赤川 次郎

今、高校生に人気のある、赤川次郎・永室牙子・新井素子といった作家の名を先生方はご存知だろうか。40代、50代の先生で、それらの作家の作品を1冊でも読まれた方は数少ないのではないかと思う。

生徒の読みたい本と、先生の読ませたい本とが大きく食い違う現在、生徒たちの読書傾向を知ることが読書指導の出発点ではないかと私は考える。

佐賀県立太良高等学校

教頭 野田健治郎

教育実践・研究のヒント

「教育資料のお知らせ」の活用を……

2月末日現在、当センターに保管されている教育資料(研究紀要、専門図書)は、次のようになっています。

- ・研究紀要…………… 11,367 冊
- ・専門図書…………… 7,635 冊

今年度入手分は、紀要 401 冊、図書 181 冊で、年度末にはさらに若干の上積みが見込まれます。質量共に充実してきており、先生方の研究、実践のお役に立つものと思います。一層のご活用をお願いします。

さて、これら教育資料の今年度利用状況を、貸出冊数の面で調べてみると、延べ 1,048 冊と

なります。閲覧数まで含めた利用数を加えると、この数倍の資料が動いたこととなりますが、まだまだ十分な利用状況とは言えません。

当センターでは、新しく入手した研究紀要について、年間 3 回の「研究資料のお知らせ」を通してその内容の紹介をしています。参照いただいて、必要な資料の提供を係に申し出てください。レファレンス・サービスも実施しています。館内閲覧は自由にしておりますので、終日調査研究の目的で入館されても結構です。

資料収集のため、各学校の研究紀要類の送付をお待ちしています。(教育資料係)